

# 地域課題の解決に向けた取組

## ～なぜコンテナ苗夏季植栽を実行したのか～

網走西部森林管理署

網走西部森林管理署では、網走西部流域で初めてのコンテナ苗の夏季植栽試験に取り組みました。

### 1. はじめに

この広報誌でも度々話題になる「コンテナ苗」。「また、コンテナの話？」という声が聞こえてきそうですが、北海道でコンテナ苗が植林に使われるようになってどれ位の年数が経っているでしょうか？

(答)北海道で植林されたのは平成23年からで、実は、まだ10年も経っていません。

コンテナ苗は導入当初は、植栽時の乾燥に強く活着が良い、裸苗に比べて初期成長が早く下刈り期間を短く出来るなどのメリットが期待され道内では国有林で先駆的に導入しました。その後、関係者が取り組みを進めた結果、植栽時の乾燥に強く活着が良い点については期待出来ることが判ってききましたが、初期成長の違いについては、想定された程ではないことも判ってききました。

### 2. 網走西部流域の課題

網走西部流域の今期の森

林計画では、前回の計画を上回る主伐が計画されています。主伐した場合、すぐに跡地に植栽をしなければ、ほとんどの山が笹生地になってしまい。その後の森林づくりに困難を極めます。一方、旺盛な苗木の需要に因應するためには、今までの以上の苗木生産体制の強化が必要となります。現在、森林づくりを担う林業労働者、特に植栽や下刈り等の保育作業と種苗生産の分野では、高齢化による離職と就労者不足による人手不足が問題となっております。



コンテナ苗



裸苗

特に、種苗生産の分野における人手不足は、苗木の生産量に一番影響を与えることとなります。

### 3. なぜ、夏季植栽？

これまでの裸苗による植林は、苗畑から掘り取り、根から土を振り落とした状態の裸苗を鍬で穴を掘り植え付ける方法が一般的ですが、裸苗は根が露出しているため乾燥に弱く、植栽は適期の春と秋の短期間にしか出来ません。

このため、苗木の出荷作業及び植栽作業もこの時期に集中し、この時期の労働力確保が一番の問題となっており、今後は植栽期間を延ばすことにより労働力の分散化を図るなどの取組が必要となります。

最初に述べたように、コンテナ苗は裸苗に比べて乾燥に強いことが科学的にも判ってききましたが、本当にいつまで植えることが出来るのか、その点に着目した植栽試験は道内では少なく、網走西部流域では一例もありませんでした。

幸いにして、当初管内にはコンテナ苗を生産する種苗事業者がおり、この事業者や研究機関の協力を得ながら、当流域におけるコンテナ苗夏季植栽の可能性を検証するため、平成30年8

月10日に当署丸瀬布地区金山国有林に植栽し、この場所を、コンテナ苗の普及及び夏季植栽試験地の機能を併せ持つ試験地に設定しました。

### 4. 今後の取組

今年度は設定した試験地を活用して「民有林・国有林森林生業技術交流会」を10月下旬に開催し、地域の民有林関係者の皆様にその技術の普及を行います。

また今後も関係機関と連携し調査を続け、コンテナ苗の優位性を示すと共に、地域特性に根ざした植栽技術の確立を図っていく、オホーツク西部流域における「林業の成長産業化」に貢献できるよう努めて行きたいと考えています。

